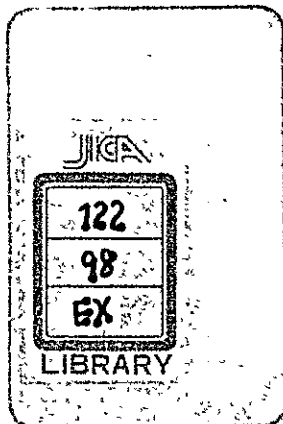


昭和40年1月一

# 衛生検査技師としてタイ国 病院に勤務して

青年技術者派遣計画による  
衛生検査技師

鈴木 ツキ  
吉川 澄子



海外技術協力事業団

國際協力事業団

加入 月日	'84. 4. 23	122
登録No.	03811	98
		EX



昭和三九年ノ月末より八ヶ月前、海外技術協力事業団の青年技術者派遣計画により衛生検査技師としてタイ国の結核病院（*Central Chest Hospital*）に赴任していた私達二人は無事任務を終了し、今度帰国致しました。八ヶ月前タイ国に於つて、衛生検査技師の眼からみた現情の一端を記してみたいと思ひます。

◎ タイ国唯一の肺結核専門病院

タイ国には、肺結核専門病院はノンスリ市（バンコックより北部約20kmの地点）に一ヶ所あるだけで、ここで附の診療所において発見された結核患者を収容し治療している。当病院は患者収容能力、400名で、医師24名、正看護婦14名、准看護婦12名（内1名は看護士）補助看護員40名、X線技師5名、衛生検査技師13名その他事務員、要務員数10名により構成されている。参考までに、患者400名のうち50名は自費患者（治療費だけが自費で、食費、寝具使用料は国費でまかなわれる）で、その他の患者は国家補助費（1日5バーツ、約90円）で治療を受けている。

◎ 私達の任務

この病院には 私達の内蔵する青年技術者派遣計画とは別れ、同じく海外技術協力事業団よりコロムボ計

画に基づき専門家として結核細菌学の工藤裕長先生(結核予防会)が勤務されており、貝先生のもとに、当病院に勤務する衛生検査技師のうち結核菌の検査に携わる者に対し、各種検査物により結核菌の検索方法、結核菌培養に要する各種の培養基および検査に要する試薬の作り方、検査に使用する器具の準備および消毒率について指導、助言するのが私達の任務であった。

#### ◎ 衛生検査技師の地位と向見点

タイ国における衛生検査技師の現状は まだ日本のように衛生検査技師の教育機関(高校卒業後2ヶ年間の専門教育を経て国家試験を受ける)はなく、また衛生検査技師制度がないため、病院における衛生検査技師の立場は非常に弱い。当病院においては、准看護婦の中より衛生検査技師を希望するもの、あるいは推薦されたものが配属されている。その待遇事情に加えて、階級制度の厳しいタイ国において衛生検査技師の地位は病棟看護婦として働くものよりも低く評価され待遇の点でも昇給はおそく、額も少ない。ちなみに、正看護婦は初任給800バーツに始まり定期昇給および昇任試験により昇給、昇任の途がひらけている。それに対し准看護婦の場合は、初任給500バー

ツで定期昇給はなく、昇給は総婦長の裁断により決まり、900バーツでストップする。衛生検査技師は准看護婦の資格をとっているとの事、往々にして准看護婦よりも低く見られがちで、昇給は准看護婦の方が優遇する。また、看護婦は日、祭日のみの休日に対し、衛生検査技師は土、日、祭日が休日であるため合計に給料が少額となる。したがって、待遇の面でも衛生検査技師になりたがらなく、遂に仕事に対する敬意も薄いようになりつつあった。

タイ国において衛生検査の仕事が確立するためには、病院内で、ひいては社会的に衛生検査技師としての業務を認めることにより彼等の地位向上に努めると同時に、医師の診断・治療の一助を貸しているという使命感と誇りを彼等に持たせることが第一であると思う。

### ◎ 衛生検査面の協力効果

当病院の衛生検査業務が未だ確立していない中であつて、夜更が徹しながらこの仕事の重要なおよび技術について実践をもつてはした結果は、それまで結核患者の診断・治療は医師の思加減だけで行なわれていた当病院において、診断、治療に欠くことのできない検査を受ける機会を提供し、タイの医療（結核治療および予防）面の進歩への契機となつたのではなからうか。ま

だ。いまだかつて結核菌を肉眼的に見ることはできなかったタイ国の衛生検査技師にとっては、意義深いものであるとともに、検査の指針を把握することかできたことと想う。

なお、現在、耳病院では結核に対する外科手術面もさることながら細菌検査面についての研究意欲が高まり、衛生検査技師の技術についても、独自で検査し始めるに至っている。

⑤ 一女医の熱心な医療活動に接して

一般に衛生観念の普及のおくれていて、またその種の奨励の余地見られぬタイ国において、滞在中心としたことの一つは、WHOから派遣されていた東先生がテエンマイ（タイ北方の旧都で、タイの京都と云われる美人の多い静かな町。タイで三番目に誕生した巨大がある）の結核専門診療所の観察にいかれた時、われわれも同行させていたとき、その診療所長（35才位の女医）の結核予防に対する熱心な活動振りでめる。療養の身である結核患者の教育もさることながら、人のたまりやすい所に痰壺を置くよう置かれたポスターをはって健康に対する注意を喚起している。また患者やその家族が手紙に因服薬をとりにきたり、換痰を持ってこさせるために遠い診療所まで行かかるとも希

かように尿検器を専ら本場に配置させ、その地区の患者分の尿を用意して検査させ、結果を受けに来る者の体の具合などをきいては指導をしていた。また、内服薬を患者が持ち帰っても飲まずに捨てるようなことがあるので尿の検査をして内服の有無を調べるなど、一貫した指導に努めているようであった。私達も所長に案内されてこれらの系々をまわつてみたが、牛期中で全部終つたところもあり、一般に患者の満足はよかつた。この坂に熱心な指導者により、人々の衛生観念の向上を旨のあたりには、この指導力をタイ国全体の患者一人一人にもつようにすれば、タイ国の医療も急速な進歩と発展を遂げるであらうと感じた。

## (参 考 資 料)

人 孩 貝 の 撫 育	(ベツト数 400)	
医 師	24名	(女医 6名を含む)
正 看 護 婦	14名	(総婦長 1名を含む)
准 看 護 婦	72名	(男の看護夫 10名を含む)
補 助 看 護 婦	40名	
車 務 員	10名	(このうち正看護婦 1名 准看護婦 6名を含む)
X 線 技 師	5名	(全員准看護婦で専任教 育を受けている)
化 生 検 査 技 師	13名	(補助看護婦 1名の他に 准看護婦)
作 業 員	12名	
調 理 士	20名	(准看護婦 1名おり全留 縣入を担任している保 養士はいないが総婦長 が兼ねている)
洗 濯 婦	5名	

註<sup>1</sup> 1) 正看護婦とは小学校7年、中學校、3年卒業  
後、看護病學校4年修了した者を云い、病棟  
主任として准看護婦、補助看護婦及び作業員  
の指導監督を行なう。



ロ) 准看護婦とは中学校卒業後、看護婦学校にて専  
門勉強した者で、病棟看護婦として働く以外に  
他の分野(事務、X線、衛生検査等)に配置さ  
れて、まったく異った仕事に就いている。

## 2. 衛生検査技師の現状

タイ国にはいまだ衛生検査技師の教育機関がない為、  
当病院に於いては、准看護婦のほかより衛生検査技師を  
希望する者 あるいは低せんされた者が配属されている。

## 3. 当病院に於ける衛生検査技師の地位が格段

階級制度のきびしいタイ国に於ける衛生検査技師の地  
位は、病棟看護婦として働くよりも低く評価され、待遇  
の点でも昇給はおそく頻も少ない。(理由は---看護婦は  
日 祭日のみ休みがあるのに比べ衛生検査技師は、土  
日、祭日も休みな為給料の点でも更正されている。その為  
に衛生検査技師になる志望者がいない。)

## 4. 衛生検査技師の勤務状態及び検査件数

### 1) 準備係 4名

硝子器具の洗滌及び消毒を担当(顕微鏡に要する試薬  
培養基を作っている。)

ロ) 検査源 2名

入院、外来患者の痰、尿、便、その他より結核菌の検査(顕微鏡に依る検査及び培養検査)を行なう。

ハ) 記録係 1名

検査結果を成績カードに記入し各担当医に提出する、又培養基観察(結核菌を培養基に植えてから定期的に培養基を調べ結核菌の発育状態を見る)を行なう。

註) 上記が直接指導にあつたのは上記ク名以外の結核菌検査技師は結核菌検査以外の一般検査(白、赤血球算定、血沉算)及び組織検査を行なつてゐる。

ニ) 検査件数

1日平均約30件(入院、外来を含む)で入院患者の検査日(主に喀痰)はあらかじめ病棟別に割り当ててある為、検査物の数は平均して出されているのであるから混乱なく行なわれている。

喀痰検査はあらかじめ塗抹検査をし結核菌を認めない場合は直接耐性検査を行なう。又結核菌を認めない場合は定性培養を行ない、数日後培養基面に結核菌のコロニーを認めない場合は直接法に依る耐性検査を行なう。(直接耐性検査は週水曜日まとめて行なつてゐる。換

検査具の不采と検査手扱に長時間要する爲、件数は10  
件以内にとどめている。

5. 検査室に於ける諸設備

検査室は病院玄関の二階にあつて一部屋しかない。こ  
の部屋を板で仕切り検査室を作つた他は、記録、準備  
培養基観察及び洗ひ物はすべてこの部屋で行なつてゐる。  
培養室は階下別棟50M 距離に在る爲、結核菌  
に汚染された帽子器具を培養室まで抱え運ぶには危険に  
おもわれた。

